

# AMDA Journal 号外

## ダイジェスト

発行：2002年12月 No.16 定価：100円  
発行元：〒701-1202 岡山市櫛津310-1  
特定非営利活動法人 AMDA (アマダ)  
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959  
E-mail：member@amda.or.jp  
編集：AMDA Journal 編集室  
ホームページ：http://www.amda.or.jp



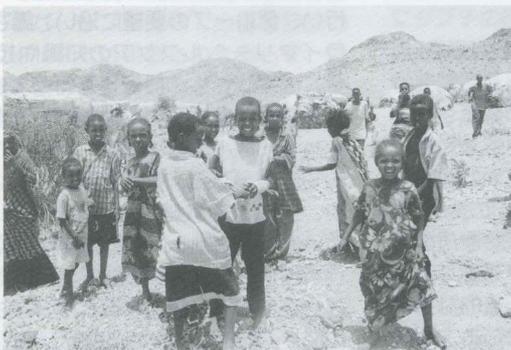
アフガニスタン・カンダハル  
国内避難民キャンプ



パキスタン・クエッタ  
アフガン難民キャンプ



ネパール  
国内ブータン難民キャンプ



ジブチ  
ソマリア難民キャンプ

AMDAは世界の平和を妨げる  
紛争や災害そして貧困に苦しむ人々を  
支援しています。

AMDAの活動は大きく緊急救援活動と地域医療支援活動の2つに分かれています。

紛争や自然災害などの被災者(難民)への短期的な救援活動である緊急救援活動としては、最近ではパキスタンでのアフガン難民支援があります。しかしアフガン難民への支援も、1年を過ぎれば、緊急救援から徐々に地域医療サービスへとその支援の内容が変わってきています。難民キャンプ内での医療システムが定着してくると、次にはそのサービス内容の充実を計る方向へと変わっていきます。例えば緊急救援では仮設診療所での診療のみだったのが、病氣予防のための保健衛生教育【プライマリーヘルスケア事業】を開始したり、キャンプ内の医療従事者への技術移転なども行なうようになってきました。

AMDAは常に現地の人々の声を聞きながら、その人々に必要とされる支援の方法を模索し、活動しています。緊急救援から地域医療支援へと移行し、現在も継続している支援事業には、ネパールの国内ブータン難民救援プロジェクト(1992年緊急救援開始)、ジブチのソマリア難民救援プロジェクト(1993年緊急救援開始)などもあります。

### アフガニスタン・カンダハル速報

AMDAではパキスタン・クエッタの2ヶ所のアフガン難民キャンプにおいて、昨年来保健医療支援を継続してきました。9月には、アフガニスタンに入り、南部カンダハル州近郊のIDP(国内避難民)キャンプへの医療支援(医療活動用のミネラルウォーターや児童用の栄養補給剤を提供)と現地調査を行いました。

最近アフガニスタンに関しては、復興と新たな国づくりが報道されていますが、カンダハル州周辺にはIDPキャンプが数多く、それらのほとんどが劣悪な環境におかれ、国際機関の支援も届きにくく、早急な支援が望まれます。調査したIDPキャンプの多くで、衛生環境の悪さからくる乳幼児の目の感染症、耳や鼻の炎症、下痢、熱傷などが目立ち、住居テントは古い布をかけてすませているところが多く、冬期の疾病の蔓延が懸念されます。

AMDAではクエッタの難民キャンプへの支援を継続しつつ、10月6日より地元医療NGOのAHDSと合同で、カンダハル

州パンジワイ郡内の3ヶ所のIDPキャンプにおいて巡回診療を開始しました。今後の課題は重症患者の高次医療施設への搬送のシステム作りや、IDPキャンプおよび近隣の無医村への巡回診療活動への拠点作りです。



\* \* \* \* \*

10月末来日したアフガニスタンのアブドラ外相との会談の席で、国際貢献大学校(岡山県哲多町が設置し、アマダ国際福祉事業団が委託運営)がアフガニスタンに人材育成を目的とするボランティア施設を設置するため、アフガニスタン政府と協議に入ることが決まりました。

ネパール



一方的な視点から、全面的に援助することは返って受益者の依存心を高め、協力が止まれば、彼らは自分達の足で立てなくなってしまう。受益者が将来的に自立した生活ができることを目的とする協力とは、自分達で考え、時には苦労も経験し、自分達の力で生活の向上を獲得できるような、自助努力を啓発する協力である。ネパール事業では、農村において女性を対象に自助による生活改善を目指した活動を行っている。

ネパールで行っている保健衛生教育事業は、女性を対象に、保健衛生教育・啓蒙活動を行い、女性達が自分達の力で母子の健康を守ることができるようになることを目的としている。ネパールの高い乳幼児死亡率や妊産婦死亡率の原因として考えられているものの多くは、医療サービスへのアクセス不足（診療所の数や交通手段）だけでなく、女性の基本的な母子保健の知識不足や貧困など社会経済的な要因に起因するものもあるといわれている。女性を対象にした保健衛生教育・啓蒙活動を通して、彼女たちの母子の健康に関する基本的な知識を高め、自助努力による生活環境の改善

を図り、母子の死亡率の低下を目指している。今年で3年目を迎え、本格的に対象地域を拡大した。今年度は59の女性グループ、約1,500名のプトワール市郊外に住む村落女性を対象にしている。まず、村落にネパール子ども病院の保健衛生教育事業担当職員が訪れ、各グループから無作為抽出した家庭の家族構成、生活環境、衛生観念、教育水準等の基本情報を収集し、事前調査を行う。その後、保健衛生教育スタッフ(4名)によるPRA(農村参加型手法)を採用し、「住民への啓発」、「自発性の薫発」、「主体的参加意識」の向上を目指す。そして、女性達の自発的な意見や要

保健衛生教育パイロット事業

AMDA ネパール 藤野 康之

望を尊重するため、地道で堅実な「対話」を行い、グループの要望に沿い、識字教育、プライマリーヘルスケアの知識や技術の勉強会、簡易トイレの設置等を行っている。

保健衛生教育の際には結核、日本脳炎、ハンセン氏病、毒蛇、性病、下痢といった病気の知識や予防法、対処法などについて、講義や、寸劇、IEC教材(Information, Education, Communication)、視聴覚資料を駆使して楽しく愉快地、クラスを展開している。教育内容を盛りこんだ劇をすると村人達は大変熱心に聞き、劇が終わるとスタッフ達が村人達との対話を通じた衛生保健教育を行う。ネパールの女性達は控えめであまり自分の意見を言わないと一般的に言われているが、保健衛生

教育事業を行っている村落の女性達は質問も積極的に言い、自分の意見もどんどん言う。女性に対し、保健衛生に関する教育を行うことにより、家族全員の健全な健康管理の推進へと繋がることが期待される。妊産婦の健康管理や母体のケアの知識を得れば、自分で自分の身体を大切に、安全な出産を迎え、より健康な赤ちゃんを出産することにつながる。また、栄養の教育を受ければ、日々の食生活の栄養のバランスが改善される。そして、家庭内での比較的簡単な処置ですむ下痢なども、わざわざ診療所まで行かなくとも母親の処置で快復が可能となる。地域社会への参加という観点からも、各種政府広報のポスターなども、母親が読んで、自身で理解するに留まらず、子どもに教えることもできる。更に、これらの期待される効果以上に、何よりも大切なことは、教育を受けた女性自身の独立心(self-reliance)や自尊心(self-esteem)を啓発することになる。そして、長期的視点に立脚すれば、子どもと接する機会や時間が圧倒的に多い母親が教育を受けると、その教育が確実に子どもへ、次世代の母親・父親へと受け継がれていくことも期待される。

簡易トイレの設置支援や、排水溝の設置支援は、保健衛生教育の効果のひとつである。衛生教育を通して、村落の人々が地域の衛生環境の重要性を認識した結果、地域にトイレや排水溝の設置を求めるのである。AMDAからは、建設に伴う技術的な支援と設置補助として建設費の約10%程度を支援し、90%の費用や労働力は住民が担う。このように、住民達の依存心を高めるのではなく、自助努力を促すような協力を目指している。

AMDA ホンジュラスでは2000年より首都テグシガルバ市ラモン・アマヤ・アマドール地区(以下RAA)とエル・パライス県トロヘス市にて保健衛生指導者(以下ヘルスボランティア)の養成を行っています。

ホンジュラスで一般に呼ばれるヘルスボランティアは、家庭訪問(健康相談、衛生指導)、コンドーム配布、脱水時に使用する補水飲料の配布、出生者、死亡者の報告、ヘルスセンターへの患者紹介が主な活動です。そのため彼らには保健衛生に関する基本的な知識が必要で、ヘルスセンターまたはNGO等がこの教育を行っています。

トロヘスでのセミナーを紹介します。2000年2月から7ヶ月間毎月2日間のセミナーを実施しました。セミナー参加者は

医療サービス機関へのアクセスが困難な11コミュニティから選ばれました。どのコミュニティもトロヘスまで2時間以上かかります。セミナーは参加者との意見交換に始まり、コミュニティに頻発する疾患を中心に、毎回予防法や助言法を取り入れた講義が進められ、約50名のヘルスボランティア養成を行い、コミュニティ薬局を設置しました。どのコミュニティも医療サービス機関への

ホンジュラス保健衛生指導者養成

AMDA ホンジュラス 渡辺 咲子

アクセスが困難なことから、保健衛生の知識を持ったヘルスボランティアの存在はとても重要であり、コミュニティの有力者(自治会メンバー)がヘルスボランティアとして活動しているところも多く見られます。

新コミュニティ薬局は昨年11月に設置され、8月までに4,057名がこの薬局を利用しています。AMDAでは薬局の設置後もボランティアの保健衛生教育を継続し、8月にはコミュニティに救急箱を配布し、コミュニティで応急処置にあたります。この救急箱はコミュニ

ティーで管理し、薬局の利益でガーゼや包帯など補充することになり、コミュニティ薬局の利益がコミュニティ全体に還元されることになりました。

ヘルスボランティアのミーティングは毎月一回行われます。ミーティングの開始時にコミュニティ間で意見交換をします。時には保健衛生とは程遠い話題になってしまうこともありますが、この意見交換はボランティアにとっても私自身にとっても有効で、特に自然薬についての彼らの知識はとても豊富で話が尽きることはありません。以前毒蛇に噛まれた時の対処について講義しましたが、私が持っている知識と言えば、傷口を洗い、止血せず、速やかに抗

毒剤を持っている病院へ移送する。これが一般に言われている処置法ですが、コミュニティでは、噛んだ蛇の頭を切り落とし、毒を牙から出し、灯油とカリベという白い固形物を混ぜて飲ませるそうです。実際にこれを飲んで、命を落とさずにすんだ人がたくさんいるそうです。また利尿作用、下剤効果、消炎作用のある植物など、トロヘスのミーティングで情報を得ることができました。

現在AMDAは11コミュニティ、32人のヘルスボランティアに保健衛生教育を行っています。2002年10月からはさらに5コミュニティ、15名のヘルスボランティア養成を開始します。



ホンジュラス

AMDAアフリカプロジェクトの端緒を開いたジブチプロジェクトは、多くの参加者に支えられ1993年以来継続されている。ジブチの人々はソマリア、アフガール、エチオピア、アラブそして1977年までジブチを統治していたフランスという多様な文化の混淆をそのまま生きている。豊かさや貧しさ、おあらかさや頑なさの渦巻きは隣国であるソマリア、エチオピア、エリトリアの内戦、戦争の波に漂う島を思い出させる側面がある。AMDAはこのアフリカ大陸の中の小島が受ける波を右へ左へとかわしながらジブチでも非常に稀な長命をほこる国際NGOとしてのプロジェクトを継続しているのだ。

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と現地政府機関とともにソマリア、エチオピア難民を対象とした難民キャンプにおける医療プロジェクトはその姿を3キャンプから現在の2キャンプ (アリアデ、ホルホルキャンプ) そして本年度、来年度はさらなるソマリア北部 (ソマリランド) への帰還プロジェクトが予定されており、その姿を消す段階に入っている。ソマリア南部、中部の情勢は未だに不安定であるが UNHCR を筆頭に国連におけるアフリカ、特にソマリアのプロジェクトは資金が集まらず縮小を余儀なくされている。大きな機関が苦しいという事は NGO である AMDA のプロジェクトも資金面では非常に苦労している。

ジブチ国内でもお金さえあれば手術や治療ができるが、難民患者に対してはそうした事ができず、移送したジブチ市内の病院から難民キャンプに返す例が多い。深い黥に覆われ

た老婆が舌癌で手術を必要としているがそうした経費の予備は国連側にも AMDA 側にもなく、子どもを引き連れ戦乱を生き抜いてきた女の一生の終局を見殺しにする事が悲しく、キャンプに帰っていく後姿を見ながら泣く私は実にプロでなく、同時に専門家でない感情を失うまい、とも思っている。現在のホルホル、アリアデ難民キャンプにおける保護を必要とする弱者、身体障害者、老人のリストを AMDA ジブチは作成している。幾つかのケースを紹介する。



## ソマリア難民キャンプの今

AMDA ジブチ 鈴木やよい

1. 現在30歳の男性、Azenake Zcyedelは、ジブチでは不可能な左眼の網膜剥離の手術を必要としているが、ジブチ国外での医療目的の渡航費は UNHCR では用意されておらず、渡航、手術費を含めた経費の目途がたためま視力を完全に失う日がまもなくやってくる、と首都のペルティエ病院仏人モント医師は AMDA ジブチに伝えてきた。

2. 難民キャンプからジブチ市内に向かう列車から飛び降り損ねて片手、片足を切断され生き延びたカデル少年 (12歳) は、命を取り留めただけでなく、順調な回復を示し、2ヶ月後である現在、難民キャンプに帰される予定となっているが、AMDA ジブチ、UNHCR ともに車椅子の調達ができずにいる。現地の会社

から寄付を通しての車椅子調達を AMDA ジブチが試みているが、偽足、義手を含め長期である少年に適した訓練をジブチ市内およびキャンプクリニックで行いたい、そうした木目の細かいサポートができるレベルにジブチの医療事情や援助は達しておらず、現時点では個人、団体の寄付などに頼る個別の対応を必要としている。

総数2万4千人以上の難民コミュニティー内にあつて切り捨てられる側も悲しいが、そうした状況をモニターし続ける AMDA 難民キャンプクリニック医師達の心中は穏かではないと思う。AMDA ジブチでは何とか、こうした状況への対処を目的とした基金ができないだろうか、と模索している。帰還後にソマリア (ソマリランド) で受けられる医療を考えると、ジブチで援助が受けられる期間にできるだけのサービスをして、祖国へ送り出したいと考える。

木が生い茂る山間部をひたすら歩く。乾燥した赤土が、履いていたブーツに付く。日干しレンガで建てられた簡素な家々を一軒一軒訪ね、5歳以下の子供がいなか聞いて回る。そして、その子たちにポリオワクチンを投与していく。これが、アンゴラでのポリオ予防接種の実施方法である。世界保健機構をはじめ様々な援助機関とアンゴラ政府保健省が協働でポリオ予防キャンペーンを開催し、AMDAも予防接種チームの一員となりキャンペーンに参加した。私自身もAMDAの派遣看護師と共に、アンゴラの保健所スタッフにまじって活動に参加した。

ワクチンの投与は簡単なもので、お弁当の醤油入れほどの大きさの容器に入ったワクチンを2~3滴、子供たちの口に落していく。医療従事者でなくても問題なく投与できる。実際、私もキャンペーンに参加した。「自分がアンゴラにいる一人の子供にポリオを予防する免疫をつけることを手伝えることができた」と一見素人じみた大げさなことを自然に感じてしまった。

私は、アンゴラ北部においてザイーレ州立病院復旧プロジェクト実施に携わった。長引く内戦でぼろぼろになり機能していない病院を復旧させ、国内避難民や帰還民からなる地元の人々に医療サービスを提供することを目的としたものである。医師2名、看護師1名

を派遣し、外来及び入院患者の診療、手術及び分娩の実施、救急病棟の確保を含めた病院サービスを充実させることを柱としてプロジェクトは進められた。(AMDA ジャーナル 2002. 8月号参照)

プロジェクト開始から1年が経過し、州立病院における医療サービスが提供できる段階に入り、プロジェクトの焦点を、病院内の医療支援から周辺コミュニティーにおける保健

## アンゴラプロジェクトを顧て

—医療支援から保健衛生活動へ—

AMDA 本部職員 田中一弘

衛生活動へと移行した。具体的な活動としては、栄養給食、保健衛生教育、予防接種などがあげられる。

病気やケガを患った人たちは病院を訪れ、適切な診療を受ける。日本では常識である。しかし、いわゆる途上国と呼ばれる国では、そうではない。病院へのアクセスが非常に限られていることが理由の一つにあげられる。プロジェクト実施前の州立病院のように、医師もいない、薬も無いという状態では、病院に行っても何の治療も受けられないため、病院に行こうとしないのである。では、どうするか。住民は、自分たちの判断で薬を買ったり、

伝統医療に頼ったり、もしくは、症状が悪化するまで放っておいたりする。こうした状況の人々の健康を考えたとき、病院での医療サービスを充実させるだけでは不十分なのである。病気に罹った人を治療するとともに、病気に罹らないための予防をすることが重要になる。

日本から派遣した看護師さんがマラリア予防や栄養管理などの保健衛生教育を実施するのに同行した。現地の言葉を覚え、明るく元気に活動する彼女は、村の人たちに親しまれていた。人々は、蚊が発生しそうな水溜りをなくすこと、キカラカサという豆にはとても栄養があるといったことを学んでいく。しかしそれと同時に、なにげない会話を楽しみながら、彼らは気持ちの余裕が持てるようになるのではと思った。

医療支援から保健衛生活動へ。そして、最終的に、厳しい状況に住む人たちの気持ちを救えるような活動へ。こういう活動ができるようにがんばりたい。



# 「プライマリーヘルスケア：PHC」

特定非営利活動法人 AMDA 理事長 菅波 茂

「プライマリーヘルスケア：PHC」は、1968年のWHO（世界保健機関）が開催したアルマータ宣言で発表された。

世の中の富の80%は20%の人によって享有されている。残りのわずか20%の富が80%の人たちによって共有されている。この80%の人たちを貧しい人という。この貧しい人がいかにして80%の富に参加できるのか。歴史をひもとけば、この熱意が数々のイデオロギを産んできた。イエスキリストは虐げられた貧しい人たちに愛を説いた。マルクスは貧しい労働者に団結を説いた。そしてWHOは貧しい人たちがお金を使わずに健康になれる夢の道を説いている。そのプライマリーヘルスケアのコンセプトを積極的に推進しているのは世界の富の80%を共有している先進国の人たちである。発展途上国の貧しい80%の人たちはなぜこの夢に飛びついているのか。健康になりたい。幸せになりたい。基本的な生活権を求めているからである。

「プライマリヘルスケア」の適切な日本語訳がない。時として初期医療とか第一次医療と言われている。しかし、依然としてカタカナで使用されているのは、日本の状況に当てはまる訳が見つからないからである。理由は簡単である。日本では国民皆保険である。国家が国民の健康を保障している。ちなみに発展途上国ではほとんどの国に医療保険が整備されていない。お金がないからである。「お金で命が買える」とはこのことである。

「万国の労働者は団結せよ」とマルクスは言った。プライマリヘルスケアの真髄は「発展途上国の貧しい人は団結せよ」である。共産主義では万国の労働者が団結して資本家に対して武力革命を起こす歴史的必然が問われた。プライマリヘルスケアでは何が問われているのか。発展途上国の貧しい人が団結して病気に対して智慧革命を起こす能力である。資本論を著わしたマルクスもプライマリヘルスケアをコンセプト化した人物もユダヤ人である。ユダヤ人とはユダヤ教を信仰する人である。ユダヤ教は集団救済の宗教であると言われる。共産主義が兄とすれば、プライマリーヘルスケアは弟か。遺伝子の共通のDNAは団結であろうか。

プライマリヘルスケアについて言及したい。まず原則は下記の3点である。

- 1) 住民参加 2) 知識 3) 経済・社会的要因

一番大切なのは住民参加である。住民参加とは行動のための団結である。団結しないと特に公衆衛生領域の伝染性疾患、

環境性疾患等々から個人の健康だけを護ることができない。母子保健などは社会習慣の関与が高い。社会習慣は社会全体が改革をしないと個人では変えられない。集団でがんばれば救済される。住民参加の範囲は生活空間である。都市と農村では異なる。農村の生活空間は生活共同体であり、相互扶助が原則である。

「貧困に対する健康増進」がプライマリーヘルスケアなら、「無知に対する健康増進」がヘルスプロモーションである。ヘルスプロモーションはカナダの人が提唱している。結核検診にきた人より来なかった人が問題である。結核の恐ろしさを知っていないからである。結核に対して無知であるからである。いかにして結核に無知な人に結核の恐ろしさを理解させるか。発展途上国では貧困と無知の双方に対する健康増進対策が必要である。先進国では無知に対する健康増進対策が必要である。

日本の医療行政は「プライマリーヘルスケア」のコンセプトを先取りするどころか、既に実現している国家である。「地域住民よ、団結せよ」と。地域の愛育委員会は典型的な住民参加である。国家の役割は法の整備と税金の予算実施である。国民健康法で全国津々浦々まで医療機関を整備した。どこでも、誰でも、一定の医療サービスが受けられる納税者の公平の原則を維持するためである。保健所法で地域住民との積極的なコミュニケーションを推進して国民病だった結核撲滅に著しい効果をあげることができた。母子保健法により母子の健康増進を集中的に推進した。いずれの法の実施においても地域コミュニティーにおける住民自らの積極的な疾病予防の運動が大前提であった。国家と住民との連携こそ日本におけるプライマリーヘルスケアの成功への秘訣であった。日本人が他人に救援の手をさしのべる時の動機は相互扶助精神である。国境を越えて支援をさしのべるときも同様である。

## ご支援の御礼とお願い

AMDAは1984年に設立以来、世界約50ヶ国で活動を実施してきました。現在もアジア（ネパール・ミャンマー・カンボジア・バングラデシュ・ベトナム・パキスタン・アフガニスタン）、アフリカ（ケニア・ジブチ・ルワンダ・ザンビア・ウガンダ）、中南米（ホンジュラス・ペルー・ボリビア）の15カ国で活動を行なっています。その活動内容も保健医療サービスを始め自立支援としての職業訓練や小規模融資、生活環境向上支援としての井戸発掘やトイレ・排水溝建設等、多岐にわたっています。こうした活動が継続できますのも、ご支援者の皆様のお陰とAMDA職員一同、感謝しております。改めて御礼申し上げます。

今後も変わらぬAMDAへのご支援、ご協力をお願いいたします。

ご寄付下されます際には同封の郵便払込票をご使用ください。活動国またはプロジェクトへの指定寄付をくださる場合には郵便払込票連絡欄にご明記ください。

郵便払込 口座番号 01250-2-40709  
口座名 AMDA

## \*書き損じハガキを収集しています!

皆様のおうちに眠っている書き損じのハガキや、未使用の切手・ハガキをAMDAまで送ってください。書き損じハガキは切手と交換し、通信費として使用しています。通信費用は活動費全体においても非常に大きな割合を占めています。皆様からの書き損じハガキによって通信費の一部が賄われることで、プロジェクト自体により多くの費用を使用できます。ご協力をお願いいたします。

送り先：〒701-1202

岡山市栢津 310-1 AMDA宛

## \*AMDA 会員募集

会員の皆様はAMDAの活動を支えてくださるAMDAのパートナーです。

AMDAの活動へのご提案やアドバイスをいただき、活動の継続と充実を共にはかっていたきたいと考えています。

AMDA会員の皆様には活動報告誌「AMDAジャーナル」を毎月お送りいたします。

入会方法：同封の郵便払込票の裏面をご覧になり、ご入会手続きをおとりください。

## \*お友達にAMDAを紹介して下さい!

AMDAの活動等に興味がおありの方がいらっしやいましたらご紹介くださいますようお願いいたします。AMDAの活動をより多くの皆様に知っていただこうと、AMDAのパンフレットを送付させていただきます。

同封の返信用ハガキでご紹介ください。